

令和6年度老人保健健康増進等事業

介護ロボット等と介護記録システムの連携やそれを介したLIFEへの連携等、
入力負担軽減に資するテクノロジー活用方法の調査研究事業

株式会社 三菱総合研究所

介護現場の生産性向上の取組推進にあたっては、介護現場で日々発生している記録業務等の負担軽減が重要な課題である。また、科学的介護を推進する観点から、介護現場においてより効果的にLIFEを活用いただくため、データ入力の負担を軽減することでより活用が進むと考えられる。一方で、入力負担軽減に資する機能や機器との連携、LIFEと連携できるデータの範囲等についてはシステム開発企業によって様々であり、これらの実態を明らかにすることによって、介護現場でのデータ収集に関するICT機器等の活用が進み、入力負担等の軽減に資する取組が広がる可能性がある。

本事業は検討委員会を設置し、有識者の意見を踏まえながら、アンケート調査及びヒアリング調査を通して、開発企業における機器やシステム等の販売（開発）状況や、介護事業者における活用状況等の実態を把握するとともに、今後のICT等の活用のあり方について検討を行うことを目的として実施した。

アンケート調査は、介護現場で扱われる情報・データについて、開発企業における機器やシステム等の販売（開発）状況と介護事業者における活用状況等の実態を把握するため、システム開発企業等（介護関連機器メーカー、介護記録ソフトベンダー）、および介護事業所（施設系サービス、居宅系サービス）を対象として実施した。回収率は介護関連機器メーカー調査で24.5%、介護記録ソフトベンダー調査で88.9%、施設系サービス調査で19.7%、居宅系サービス調査で18.3%であった。またヒアリング調査は、より具体的な情報収集を目的とし、介護関連機器メーカー5件、介護記録ソフトベンダー4件、施設系サービス3件、居宅系サービス2件を対象に実施した。

アンケート調査、及びヒアリング調査結果から、介護現場で収集・活用される情報について、利用方法ごとに3つの区分に整理を行った。そのうえで、介護現場で収集・記録されている情報について、テクノロジー活用の現状、及びテクノロジー開発・活用に向けた現場のニーズと今後の展望を、情報の区分ごとに取りまとめた。また、テクノロジーの開発、及び現場への導入・定着に向けた課題と対策について整理を行った。